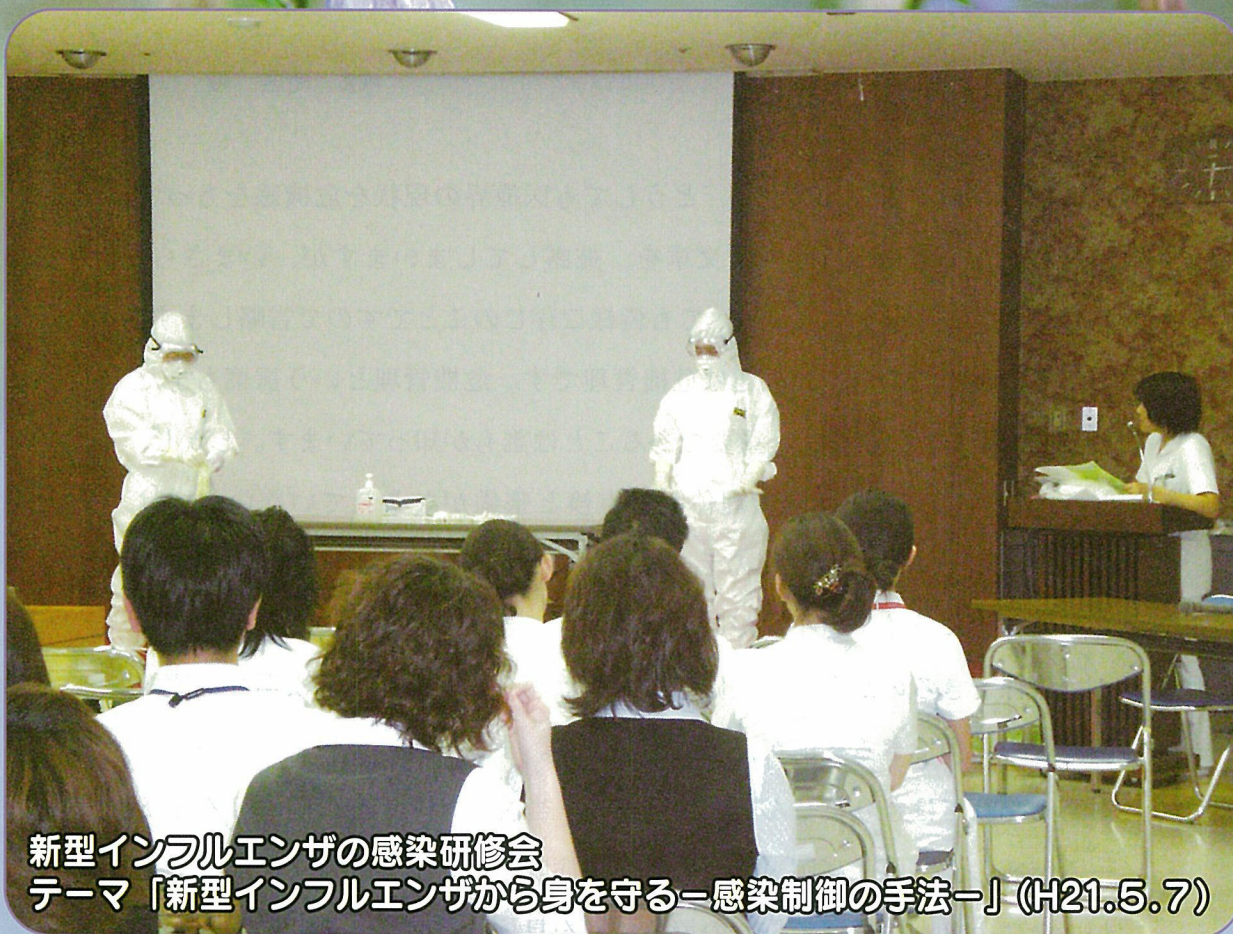


地域医療連携室

フレンディーだより

Community medicine cooperation room



新型インフルエンザの感染研修会
テーマ「新型インフルエンザから身を守る—感染制御の手法—」(H21.5.7)



2009

vol. **31**

H21.6 発行

黒部市民病院 黒部市三日市1108-1

E-mail : friendly@med.kurobe.toyama.jp

黒部市民病院の 新年度の課題から



院長 新居 隆

病院長のあいさつというと、どうしても医療界の現状を危機感をもって解説したため息のつくような文章を、披露してしまいますが、いまさら、そのようなことを一々申し述べても皆様ご存じのことですので省略します。

黒部市民病院の今年の課題は危機管理です。危機管理という言葉もまた日常的によく使いますし、重要であることは誰もが知っています。しかし、どうも現実に即した危機管理体制の点検と整備がなされていないのではないかと考え、平成21年度のテーマにしました。とりわけ、広域災害が起こったときにライフラインがどれだけ確保できるのか、スタッフはどれくらい確保できるのかを点検整備しなくてはなりません。それ次第で医療機関として発揮できる機能が決ってきます。また、院内の患者と職員への対応も忘れてはなりません。また一方で、当院では昨年度にDMATを1チーム結成し、富山・高岡・砺波の各市民病院との応援の協定も結びましたが、なによりも医療圏単位での協力体制を具体的に考える必要があると思います。

災害医療だけでなく救急医療、地域完結型医療、新型インフルエンザ体制など、どれをとってみても医療界が現在かかえる課題はどれも地域単位で対処しなくては解決のつかない問題ばかりです。

みなさまとっしょにこれらの重い課題に取り組んでいきたいと思っています。

診療科紹介+

皮膚科外来



①スタッフ

(常勤医)

大石直人 (皮膚科医長) : 日本皮膚科学会専門医

水野美幸 (皮膚科医員) : 日本皮膚科学会専門医

(非常勤医)

前科長であった福井米正先生に、月・水・木の
外来診療を手伝って頂いております。



②診療体制

受付時間

7 : 30 ~ 11 : 00

7 : 30 ~ 14 : 30 (月曜日、水曜日のみ)

診察時間

午前 8 : 30 ~ 12 : 00 (予約外は、9 : 00 ~ 開始)

午後 14 : 30 ~ 16 : 30 (月曜日、水曜日のみ)

診察を希望する先生がある場合は、看護師にお知らせください (福井先生は、月・水・木の午前のみ)。

初診の方、または3か月以上外来に来られていない方は、診察前に問診票の記載をお願いします。

予約は、現在のところ診察時にしかできません。

予約された方の電話での変更は、受けつけております。

③対象疾患と治療

皮膚科は、皮膚に生じたもの以外に、皮膚付属器（毛髪、爪）や口唇粘膜まで、幅広くみる科です。

●湿疹・皮膚炎

アトピー性皮膚炎の場合、ステロイド外用、免疫抑制剤の外用と保湿が治療の主体ですが、かゆみが強い方には抗アレルギー剤の内服を併用しております。重症な方には、免疫抑制剤の内服を追加し、TARCというアトピー性皮膚炎の病勢を示すマーカーの採血を行っています。また、小児で食物アレルギーの合併が疑われる方には、IgE RASTの採血で疑いのある食物をスクリーニングしています。

他の湿疹・皮膚炎もステロイド外用剤の外用が治療の主体であり、かゆみが強い方には抗アレルギー剤の内服を併用しております。また、各疾患での日常生活の注意事項を説明しております。

●蕁麻疹

特定の食物が原因のアレルギー性の蕁麻疹は全体の約5%と言われております。その方たちには、IgE RASTの採血で原因食物を同定します。その他は、薬・健康食品の摂取、細菌・ウイルス感染（病巣感染を含む）、仮性アレルゲン、食物添加物、物理刺激、温熱など様々な原因からなり、また複数の関与から起こることもありうるので、原因ははっきりしないことが多いです。治療の主体は抗アレルギー剤の内服ですが、重症の方にはステロイド内服、点滴を行っています。

●炎症性角化症（乾癬や掌蹠膿疱症など）

乾癬はまだはっきりした原因がわかっていませんが、掌蹠膿疱症は病巣感染、金属アレルギー、喫煙が言われております。治療は、ステロイド、ビタミンD₃外用療法が主体ですが、難治の場合はPUVA療法（紫外線照射）、免疫抑制剤の内服、ビタミンA類似物質の内服を行っています。また、掌蹠膿疱症にはビオチン（ビタミンH）内服が有効な方がおられます。

●自己免疫性水疱症（尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡など）

皮膚に水疱が次々できる病気です。治療は、ステロイド内服が主体で、難治の場合は免疫抑制剤の内服、免疫グロブリン製剤の点滴を行います。尋常性天疱瘡の場合は抗dsg1抗体や抗dsg3抗体、水疱性類天疱瘡は抗BP180抗体が病勢に相関しておりますので、採血で測りな

から臨床症状と照らし合わせ、ステロイド減量を行っていきます。

●皮膚腫瘍・皮下腫瘍

ダーモスコピーなども使用し、診断を行っています。皮下腫瘍の場合、放射線科の先生にエコーをお願いし、診断の精度を上げています。局所麻酔を用いる小手術であれば、日帰り手術を基本としています。全身麻酔をかけるような大きな手術に関しては、形成外科の先生と連携して治療を行っています。

●帯状疱疹

水痘・帯状疱疹ウイルスの再活性化で生じる疾患で、免疫力が低下した方に発症します。抗ウイルス剤の点滴、または内服とビタミンB₁₂内服で加療します。痛みに対してはNSAID s（鎮痛剤）の内服を行いますが、痛みが強い場合は麻酔科で神経ブロックなどを併用することがあります。

●蜂窩織炎

黄色ブドウ球菌などの細菌が皮膚の微細な傷から皮下組織（脂肪織）に入り、炎症を起こす疾患です。抗生剤の点滴、または内服が必要ですが、安静にしていないとなかなか治りにくいことがあり、入院治療が望ましい疾患です。

●尋常性疣贅（イボ）

いぼのウイルスが角質の表皮の細胞に感染し、増殖する疾患です。治療は液体窒素による皮膚冷凍凝固術を2～3週間に1回行う必要があります。また、当科では症例に応じて、トリクロロ酢酸やSADBEなどの薬品を使用することがあります。多発している方には、ヨクイニンという漢方薬の併用を行っています。

●足爪白癬

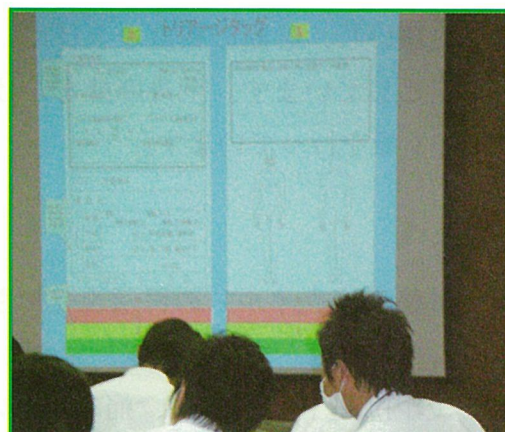
いわゆる水虫ですが、足のみの場合は抗真菌剤外用3～6カ月で略治します。しかし、爪白癬の場合は外用のみではなかなか軽快せず、積極的に抗真菌剤の内服を行っています。

●脱毛症

円形脱毛症に関しては、内服・外用を基本として治療しますが、難治の場合SADBE療法やステロイド局注などを併用して治療に当たっています。また、男性型脱毛症の場合は、プロペシア内服（保険適応外）を行っています。

集団災害対策訓練説明会

平成21年度集団災害対策訓練説明会が、5月12日(火)、15日(金)、18日(月)、21日(木)、当院3階講堂で行われました。



☆医師の異動のお知らせ☆

(4月1日付)

科	転出	⇒	転入	科	転出	⇒	転入
内科	猪俣純一郎		小林 大祐	産婦人科	橋本 桂子		減員
内科	野村 能元		丸山 仁	泌尿器科	野崎 哲夫		奥村 昌央
内科	増員		浦田 隆正	脳神経外科	上山 浩永		宮島 謙
呼吸器科	品川 俊治		河岸由紀男	耳鼻咽喉科	星田 茂		中西 庸介
呼吸器科	栗山 政人		減員	麻酔科	大石 博史		岩瀬 康子
小児科	和田 拓也		榊 久乃	放射線科	橋本奈々子		齊藤 順子
整形外科	青木 雅人		渡邊 裕規	形成外科	増員		宮永 亨

講演・勉強会のご案内

1. 新川胸部疾患検討会

日時：毎月第2木曜日
午後6：30～
午後8：00
場所：本館3階 指導室

2. オープンベッドカンファレンス

日時：偶数月の第2水曜日
午後6：45～
午後7：45
場所：本館3階 指導室

3. 内科カンファレンス

日時：毎週火曜日
午後6：40～
場所：本館3階 指導室